令和５年度　自己評価実践報告書

学　校　名　福島県立好間高等学校

Ⅰ　自己評価の概要

１　『学校経営・運営ビジョン』（別紙１）について

前年度の学校評価結果に基づき、令和５年度の教育目標及び重点努力目標を協議し、全職員共通理解のもと「目指す生徒像」を実現するため各項目のねらいを下記のとおり確認し、４つの重点目標を策定した。

＜重点目標１＞　「自らを律する力を鍛えます」

規律ある学校生活を送らせるために、全職員共通理解のもと指導体制を構築し、安全教育やあらゆる教育活動の中で徹底した生徒指導を実施し、基本的生活習慣の確立を目指す。

＜重点目標２＞　「学ぶ力を鍛えます」

授業時数の確保、基礎学力養成問題集の有効活用、総合的な学習の時間の計画的運用により、基礎学力向上と家庭学習の習慣化を図る。また、組織を有機的に連携させ、各種資格取得の推進を図るとともに、計画的な進路指導を展開し進路実現を目指す。

＜重点目標３＞　「心と身体を鍛えます」

部活動、生徒会・委員会活動、ボランティア活動、教科横断的な道徳等を積極的に推奨し、生徒自らがそれらの活動の意義を実感・体験できる体制を構築する。また、国際交流にも参加させ、グローバルな人材と豊かな心を育成する。

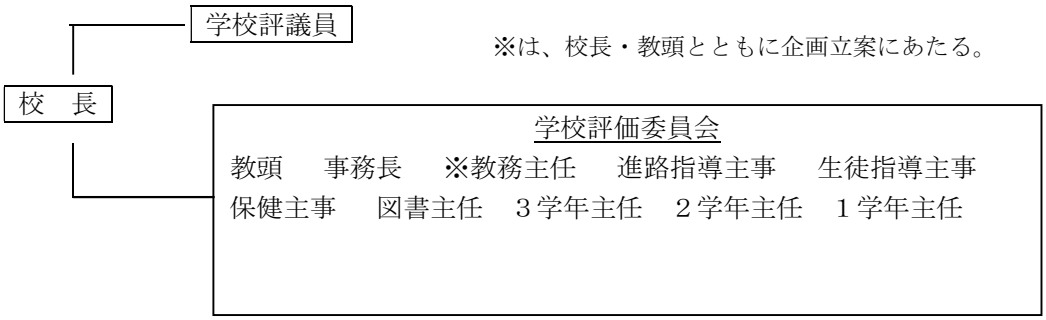
＜重点目標４＞　「保護者や地域との連携で鍛えます」

学校・家庭・地域の三位一体となった教育活動を展開するため、教育活動の情報を積極的に地域に発信するとともに、諸団体との連携を一層密に相互協力体制の構築を図る。

２　校内組織体制について

職員会議が学校評価委員会を兼ねる。教頭及び教務主任が企画立案を行い、事業が円滑に進行するよう評価事業の効率化を図った。

【組織図】



３　自己評価年間計画について

（１）令和５年度学校評価事業計画（別紙２－１、別紙２－２）

（２）好間高等学校における学校評価システム（別紙３）

（３）Webアンケートにより教職員、生徒、保護者の評価を実施する。

（４）評価のねらい

①　計画的な自己評価や外部評価をとおして、絶えず教育活動の改善に資する。

②　ＰＤＣＡサイクルを機能させ自己変革や組織力向上への意欲向上を図る。

Ⅱ　評価結果の概要

1　実施方法等

項　目	年度末評価			
	実施部署	評　　価	実施方法	コメント
生　　徒	学校評価委員会	４段階評価(A～D)	アンケート (一部電子化)	生徒の実態と課題を把握し改善へ向けた方策等の資料とした。
保　護　者	学校評価委員会	４段階評価(A～D)	アンケート (一部電子化)	自由記述欄も併用し、保護者の学校に対する期待や要望の把握に活用した。
教　職　員	学校評価委員会	４段階評価(A～D)	アンケート (電子化)	教職員の意識改革と意識向上実現へ向けた一助とした。
学校評議員	学校評価委員会	意見聴取等	評価書	地域社会が本校に寄せる期待や評価、さらに本校が目指す教育活動について明確に把握することができた。

2　アンケート及び回答数

	初期評価		中間評価		年度末評価	
	対象者	回答数（%）	対象者	回答数（%）	対象者	回答数（%）
生徒	156	156(100%)	150	150(100%)	146	145(99%)
保護者					146	75(51%)
教職員	21	21(100%)	21	21(100%)	21	21(100%)

アンケートの回答率は、生徒・教職員ともに１００％であった。また、保護者については、平成２２年度に年度末のみ実施で成果を得られることが確認できたことから、年１回の実施としている。実施にあたっては、生徒を通じてＱＲコードを配付し、それを読み取って回答する形式とした。回答率は５割ほどであったが、建設的な自由記述もあり、この形式を継続していきたい。

3　評価基準について

評価基準	A	B	C	D
教 職 員	大変優れている	やや優れている	やや劣る	劣る
生　　徒	とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない
保 護 者	大変良い	良い	あまり良くない	良くない

評価基準は、上記のような４段階とし、肯定的な意見と否定的な意見が明確に分かれるように設定している。これにより、生徒や保護者の、本校に対する評価傾向を把握することができる。

4　年度末評価のまとめ

（1）年度末評価実施の目的、意図

①　教職員、生徒、保護者が、それぞれの立場から１年間の教育活動を評価し、自己評価の客観性・透明性を高め、開かれた学校づくりに努める。

②　学校、家庭、地域が一体となり現状把握と課題解決へ向け共通理解を深め、様々な視点から検証し学校運営の改善を促進する。

③　学校が、自らの教育活動や学校運営について、継続的に組織的な改善を図り、学校評価の実施と結果の公表により、適切に説明責任を果たすとともに、教育活動全般において、保護者や地域等から理解と参画を得て、その連携・協力による学校づくりを進める。

（2）年度末評価結果の分析及び結果概要

①　年度末評価・反省（学年・部・教科）（別紙４参照）

② 学校評価（最終）（生徒・保護者・教職員）集計結果（別紙５参照）

Ⅲ 広報の概要

１ 目的や意図

本校の状況を保護者の皆様や地域の皆様、更に多くの方々に広く知っていただくために、ホームページによる情報公開、更にはＰＴＡ会報、一斉メール等を行った。

２ 実施計画・及び実施状況

（１）ホームページ：行事ある毎に随時更新した。学校の情報や入試情報をリアルタイムでお知らせした。また、画像も掲載した。

（２）ＰＴＡ会報：保護者との合同制作である。１１月と１２月と1月に定例会を行い作成し、３月１日の卒業式に発行した。写真を多く掲載し、見やすくする等工夫した。

（３）一斉メール：適宜、配付プリントの確認や緊急連絡等で活用した。また学校閉庁日等の連絡手段として、生徒、保護者に学校アドレスを周知した。

（４）進路だより：キャリア教育の方針に基づき、生徒の進路意識の向上のため発行した。

（５）図書だより：新着図書の紹介等を全校生徒に周知するため、適宜発行した。

（６）保健だより：感染性となる疾病予防や季節に応じた健康話題を掲載して毎月発行した。

３ 配付対象、配付時期、配付方法等

（１）配付対象：全生徒と保護者

（２）配付時期：ＰＴＡ会報は３月１日、保健だよりは毎月発行した。その他は不定期であった。

４ 実施してみての反省点等

ホームページは行事ごとに係が更新した。また、画像等で的確に情報が発信できているので生徒の様子が分かりやすい。

Ⅳ 次年度へ向けて

１ 評価結果の特徴、自己評価実践の評価等

生徒、保護者からのアンケート結果は、概ねＡ（大変良い）、Ｂ（良い）が多く、決して悪い評価ではない。現在行っている教育活動をより効果的なものにしていくことに尽きる。本校は令和７年度の統廃合され、新しい学校になるが、在籍している生徒の教育環境を保障できるようにしたい。

２ 自己評価全体の次年度の取組について（ビジョン・組織・年間計画での反省点に基づいて）

今年度、教職員評価を学校経営・運営ビジョンに合わせた形式に変更した。また、新たにＧｏｏｇｌｅフォームを使ってのアンケート実施に取り組んだ。次年度はそれをさらに進めていく予定である。

３ 次年度へ向けての課題、改善点、重点努力事項、展望など

統廃合を見据え、好間高校としての「まとめ」の時期になる。学校評議員からの御意見を伺いつつ、学校評価を有効に活用していく。

４ 終わりに

学校での教育活動もコロナ前に戻ったことから、生徒主体の学校経営ができるよう、より「開かれた学校」とすべく、関係機関や地域のリソースを活用して教育活動の充実を図っていきたい。

５ 添付資料

（１）『学校経営・運営ビジョン』

（２）令和５年度学校評価事業計画

（３）令和５年度学校評価の実施計画

（４）好間高等学校における学校評価システム

（５）令和５年度年度末評価・反省（学年・部・教科）

（６）令和５年度学校評価（生徒・保護者・教職員）